

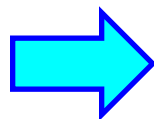
資源安定地域の状況を把握して、低迷地域の放流技術改善に活用します

背景

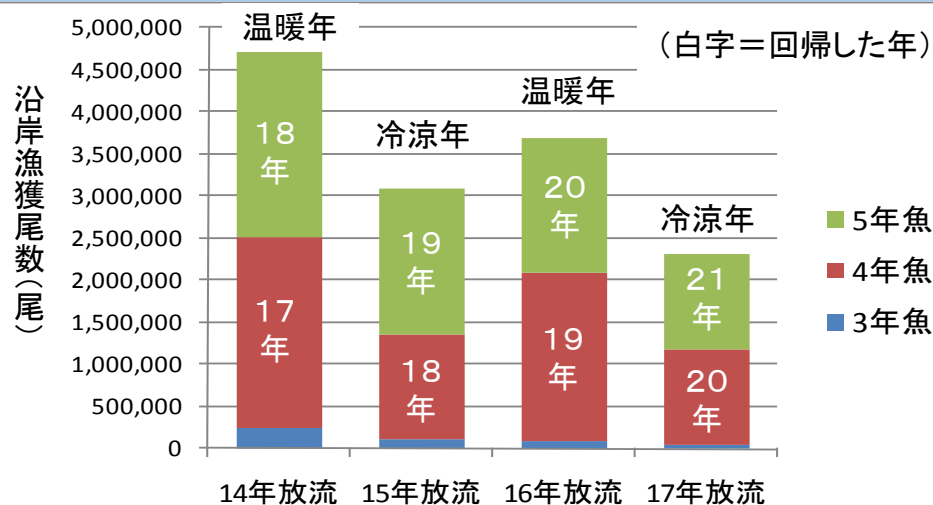
- ・オホーツク海側のサケ資源は比較的安定していますが、環境などを把握していませんでした。
- ・近年、北海道への秋サケ来遊量は減少し、特に太平洋側での減少が著しい状況です。

成果

1 資源安定地域（オホーツク海）での状況把握



2 資源低迷地域（太平洋）にあった放流技術の開発



- オホーツク海では温暖な年に放流したサケの回帰が良く、この調査結果を基に水温が最適な時期に放流するようになりました。

期待される効果

- ・来遊量が低迷している太平洋地域でのサケ資源の回復が図られます。

○道東太平洋海域でも同様の調査を開始しました

- ・標識放流試験により回帰状況を把握し、自然界への順応能力の向上を目指します。
- ・沿岸調査から放流技術の改善を図ります。



- ・放流サイズ・時期・場所を変え標識放流を実施

- ・沿岸環境（餌生物、水温、塩分）稚魚の移動・分布・成長を調査

